

令和元年度教育委員会点検評価報告書

(平成 30 年度分)

雲南市教育委員会

目 次

1. 平成30年度 教育委員会の活動状況	
(1) 雲南市が目指す教育	2
(2) 平成30年度の新たな事業	2
(3) 教育委員会の運営・活動	3
2. 点検評価に当たって	
(1) 点検評価の対象	4
(2) 点検評価の方法	4
3. 平成30年度 教育委員会点検評価	
目標 1 学校・家庭・地域（企業・NPO等を含む）・行政の協働を推進し、 社会全体の教育力を向上させる。	6
目標 2 学力の向上を目指すとともに、学校を支援する体制を整備する。	6
目標 3 保幼小中高の連携・接続による特色ある学校教育を推進する。	7
目標 4 学校教育・社会教育の連携・協働により、「土曜日の充実」をキャ リア教育の視点で取り組む。	7
目標 5 「子ども政策局」、教育NPO法人「カタリバ」との協働により、 子どもや家庭の支援の充実を図る。	8
目標 6 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を推進する。	8
目標 7 安全・安心な教育環境の実現と充実した教育活動を支える環境を 整備する。	8
目標 8 人権・同和教育、平和教育を推進する。	9
目標 9 文化財・文化振興行政の充実と賑わいのあるまちづくりを推進する。	9
目標 10 生涯スポーツを推進する。	9

1. 平成30年度 教育委員会の活動状況

(1) 雲南市が目指す教育

平成26年度に策定した「第3次雲南市教育基本計画」では、雲南市が目指す「教育の基本目標」を継承し、次の3点を基本政策としています。

- ① 雲南市教育の推進体制の構築
- ② 「生きる力」を育てる学校教育の推進
- ③ 心豊かでたくましい人づくりをめざした社会教育の推進

この基本計画の4年目に当たる平成30年度は、次の10項目の重点施策を掲げ、各種の具体的事業に取り組みました。

- ① 学校・家庭・地域（企業・NPO等を含む）・行政の協働を推進し、社会全体の教育力を向上させる。
- ② 学力の向上を目指すとともに、学校を支援する体制を整備する。
- ③ 保幼小中高の連携・接続による特色ある学校教育を推進する。
- ④ 学校教育・社会教育の連携・協働により、「土曜日の充実」をキャリア教育の視点で取り組む。
- ⑤ 「子ども政策局」、教育NPO法人「カタリバ」との協働により、子どもや家庭の支援の充実を図る。
- ⑥ 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を推進する。
- ⑦ 安全・安心な教育環境の実現と充実した教育活動を支える環境を整備する。
- ⑧ 人権・同和教育、平和教育を推進する。
- ⑨ 文化財・文化振興行政の充実と賑わいのあるまちづくりを推進する。
- ⑩ 生涯スポーツを推進する。

(2) 平成30年度の新たな事業

① 外国語教育担当職員の配置

平成26年度からの4年間、吉田中学校区（県立三刀屋高校含む）が文部科学省の英語教育強化地域拠点事業の指定を受け研究を進めてきたことから、この成果を他の小中学校へ広げ、外国語教育の更なる推進を図るため、外国語教育担当職員（市職員）として教員を1名採用し、学校教育課内へ配置しました。

② 教職員の働き方改革に係る取り組み

ア) 「雲南市立中学校部活動の方針」策定

教員の働き方改革を進めるため、部活動ガイドライン検討委員会を設置し、国の「部

活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「島根県部活動の在り方に関する方針」に沿った「雲南市立中学校に係る部活動の方針」を策定しました。

イ)「日直を置かなくてもよい期間」の設定

夏季休業中に「日直を置かなくてもよい期間」を設けました。

③ コミュニティ・スクールの導入促進

令和元年度の市内全7中学校区のコミュニティ・スクール化を目指し、平成29年度には海潮中学校区、三刀屋中学校区において学校運営協議会を設置し、平成30年度は加茂、吉田、掛合中学校区の3中学校区に学校運営協議会を設置しました。

④ 第三の居場所整備事業

様々な事情により放課後児童クラブやスポーツ少年団の活動等に参加しづらい児童を対象とした新たな居場所の開設に向け、加茂文化ホール「ラメール」和室を専用拠点とするための改修工事を行いました。

⑤ スペシャルチャレンジ・ジュニア事業補助金

未来の雲南市を担うチャレンジ人材を育成するため、中高生が夏季休業等を活用して、国内外での多様な体験学習プログラムに参加する費用の助成を行い、中高生8名がアメリカ、オーストラリア、韓国、カンボジアでの研修に参加しました。

⑥ 学校給食センター建設事業

老朽化した4か所の学校給食センターを統合する、新たな統合学校給食センターの整備に向けて、6月に工事着手しました。

⑦ 永井隆記念館建設事業

平成29年度の基本設計をもとに整備に関する委員会の意見を踏まえ実施設計に取り組みました。又、旧記念館を取壊し、敷地造成、市道永井記念館線の改良工事を行いました。

⑧ 大東図書館施設整備事業

平成29年度に大東図書館の本移転整備の増改築工事を行い、開館準備を進め平成30年6月にオープンし市民の生涯学習の拠点として利用を開始しました。

⑨ 加茂 B&G 海洋センター「ラソンテ」のオープン

健康づくり拠点施設整備基本計画に基づき、平成30年度中の竣工を目標に改修工事に取り組んでいた工事も平成30年5月末に終え、平成30年7月8日に竣工セレモニーを行い市民の健康づくりの拠点として利用を開始しました。

(3) 教育委員会の運営・活動

① 総合教育会議

平成30年度は、2回開催し、次のことを協議しました。

- ・第1回 教職員の働き方改革について、国及び市の状況説明を事務局から受けたのち学校現場の状況について校長から直接意見を聴取し、児童生徒への影響などの意見交換を行いました。
- ・第2回 第1回に引き続き教職員の働き方改革について、長時間労働、部活動のありかたなどを協議しました。

② 定例会、懇談会、臨時会

次ページ掲載資料のとおり実施しました。

③ 教育委員による学校訪問・各種行事への参加

・学校訪問等

学校図書館活用教育や総合的な学習の時間の充実に向けた取り組み、複式学級等における算数の授業改善、新任校長校における働き方改革を含めた学校経営状況等について、意見交換を行いました。また、市内こども園・小中学校で開催された研究大会に参加しました。

・各種行事への参加

成人式等各種式典、行事へ参加しました。

④ 視察研修

松江市八束町八束学園へうかがい、義務教育学校開校にむけての取り組み状況について松江市教育委員会から説明を受け、また八束学園からは義務教育学校への移行してからの状況について説明を受けました。さらに、校舎見学をし、義務教育学校のあり方を学びました。

2. 点検評価に当たって

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成20年度から毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果を報告書として議会に提出するとともに、市民の皆様へ公表することとされています。

(1) 点検評価の対象

今回の点検評価は、平成30年度の重点施策に基づき実施した各種事務事業を対象としました。

(2) 点検評価の方法

行政評価における「施策マネジメントシート」及び「事務事業マネジメントシート」をふまえて、教育委員会で、必要性、効率性、有効性、公平性等の様々な観点から分析し、課題や問題点、今後の改善点について点検評価することとしました。

資料

教育委員会の活動					
(1) 会議・活動の開催状況					
項目	単位	平成30年度	平成29年度	増減	事業内容
定例会	回	12	12	0	毎月1回開催
臨時会	回	1	1	0	必要に応じ開催
懇談会	回	7	7	0	必要に応じ開催
傍聴者数	人	0	0	0	
総合教育会議	回	2	2	0	
視察研修	回	1	1	0	必要に応じ実施
(2) 審議の状況					
項目	単位	平成30年度	平成29年度	増減	事業内容
定例会審議案件	件	107	127	▲ 20	
報告事項	件	22	24	▲ 2	
承認事項	件	5	6	▲ 1	
審議事項	件	24	31	▲ 7	
指定事項	件	0	2	▲ 2	
教育長報告	件	56	64	▲ 8	
臨時会審議案件	件	1	1	0	
懇談会協議件数	件	8	11	▲ 3	
(3) 定例会・臨時会・懇談会以外の活動状況					
項目	単位	平成30年度	平成29年度	増減	事業内容
学校訪問	件	11	10	1	

3. 平成30年度 教育委員会点検評価

目標1 学校・家庭・地域（企業・NPO等を含む）・行政の協働を推進し、社会全体の教育力を向上させる。

- 地域全体の教育力向上に向け、小学校への地域コーディネーターの配置や地域自主組織との関わりにより、ふるさと教育の充実を図りました。
- 教育フェスタについては、学社連携による総合的な教育施策の成果発表の場としてだけでなく、社会全体の教育力向上という視点から、教育課題にどのように取り組むか議論し、また教育関係者だけでなく、保護者や地域住民の参加を増やすことが重要であると考えます。
- コミュニティ・スクール導入事業は、導入を進めていく中で、目指す子ども像の共有、学校運営協議会の設置や学校支援地域本部との関連等について、今後さらに保護者や地域住民の理解と連携・協力が必要となるため、丁寧な説明と議論の場の設定や広報活動が必要だと考えています。
- 海外視察等派遣事業は、参加後の追跡や参加者の活用を進め、今後の市のグローバル人材育成に大いに役立つと考えています。

目標2 学力の向上を目指すとともに、学校を支援する体制を整備する。

- 校長協議会補助金については、校長の学校経営方針に基づき、学校独自の取り組みを促進するために事業を継続することが望ましいと考えます。また、学校の特色を活かしたプランに補助金を重点配分することについて、引き続き検討する必要があると考えます。
- スーパーティーチャー活用事業については、教員の指導力向上が子どもたちの学力向上につながり、現場の教員からも肯定的な評価を多く受けていることから、継続することが必要だと考えています。また、市内教員をスーパーティーチャーとして、研修機会を与えることも必要ではないかと考えます。
- 吉田中学校区での英語教育の取り組みの成果を市内各校に広げると共に、担任を中心とした小学校における英語学習の充実に取り組みました。AETの配置は、小学校英語教育の成果向上のためにも継続が必要だと考えます。
- 学校図書活動充実事業は、自ら学ぶ意欲や探求心、豊かな感性の育成に大いに資す

る事業であると考えています。学校司書の配置校では、児童・生徒の学校図書館の活用が進んでいる実態をふまえ、市内全校への配置を図る必要があります。

目標3 保幼小中高の連携・接続による特色ある学校教育を推進する。

- キャリア教育の推進により、自分には良いところがあると思う生徒の割合や、将来叶えてみたい夢がある生徒の割合が前年度から引き続いて増加しています。
- 郷土・伝統・文化推進事業については、児童生徒に価値やすばらしさ、楽しさを伝え、将来の人材として育てていくためにも、事業の継続・充実が必要であると考えます。
- 「夢発見プログラム」は、保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校一貫した本市の特色あるキャリア教育推進プログラムです。これに基づき自立した社会性のある大人となるためのキャリア教育を一層進めていくべきであると考えます。
「夢」発見ウィーク事業をはじめとした各種事業については、成果発表の場や教職員の指導に活かす取り組みの充実等について検討していく必要があります。
- 教育魅力化事業については、人口の社会増や持続可能な地域づくりという課題の解決策としても重要です。これまで取り組んできた保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校でのキャリア教育に加えて、高等学校にコーディネーターを配置し、連携が進むことにより、特色ある雲南市の教育施策の一層の充実や教育の魅力化につながるものと考えています。

目標4 学校教育・社会教育の連携・協働により、「土曜日の充実」をキャリア教育の視点で取り組む。

- 土曜学習「中高校生の幸雲南塾」に年間を通して取り組み、雲南市の魅力発見、発信など生徒に多様な学習や活動の場を提供することができ、社会教育によるキャリア教育の推進を図ることができました。
- 土曜日・放課後を地域における「総合的な学習の時間」と位置付けています。児童生徒の柔軟な思考や行動力の育成は将来の地域づくりに大いに役立つものです。この視点からも、児童生徒の興味関心を喚起し、自発的な参加意欲が増すようなプログラムの充実、コミュニティ・スクールとの連携等が必要であると考えています。

目標5 「子ども政策局」、教育 NPO 法人「カタリバ」との協働により、子どもや家庭の支援の充実を図る。

- 教育 NPO 法人「カタリバ」への業務委託により設置している「教育支援センター」は保護者や学校から評価する声をいただいております、その重要度は増してきています。引き続き、学校現場や保護者等と連携を図り、子どもに寄り添った支援が必要だと考えています。
- 「子ども家庭支援センター」についても、関係機関との連携も進み相談件数も600件を超え、保健・福祉・教育の総合相談窓口としての認知度が高まっています。専門職員等の人員増を含め、迅速な対応や連携のできる組織及び体制の充実が必要だと考えています。

目標6 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を推進する。

- 学校支援員配置事業については、特別な支援を必要とする児童生徒が増加する傾向にあり、支援員の配置に努力をしてくれているが、一人あたりの業務が多く、支援の充実を図りたいと考えています。
- 保・幼・こ・小・中のみならず、家庭や地域も含む多面的で社会生活につながる特別支援教育の取り組みを考えていきます。

目標7 安全・安心な教育環境の実現と充実した教育活動を支える環境を整備する。

- 市内の小中学校22校の普通教室へのエアコン設置を完了しました。更に、特別教室への計画的なエアコン設置も行います。また、今後も、子どもの安全・安心を図るべくトイレ環境も含め学校施設の計画的な整備が必要であると考えています。
- 大阪北部地震でのブロック塀倒壊事故を受け、学校施設内の安全点検を行い、ブロック塀29箇所の内危険箇所2箇所について撤去を行いました。また通学路においては、ブロック塀所有者に対し、安全確保への啓発を行いました。
- 令和元年度完成に向け、統合学校給食センターの建設に取り組みました。今後は、調理受託業者の選定、地元野菜生産者との連携により安全・安心な給食の提供を進めることが必要だと考えています。

目標 8 人権・同和教育、平和教育を推進する。

- 人権・同和教育、平和教育は事業の継続が目標達成への重要な一歩となるとの考えから、定例公開講座、同和問題地域講座など、地域での研修会を開催し、広く学び、考える機会を提供しました。
- 「永井隆平和賞」は雲南市における特色ある平和教育を推進する上で重要な取り組みです。今後も、世代を超えて平和を考える事業とするために、式典や学校での平和学習のあり方などの継続した取り組みとするための検討が必要だと考えています。
- 「永井隆記念館」改築を一つの契機に、永井隆博士の「平和を」の精神を次世代に継承し、それを市内外に更に発信し、平和への関心がさらに深まるように、働きかけを強める必要があると考えます。

目標 9 文化財・文化振興行政の充実と賑わいのあるまちづくりを推進する。

- 古代出雲王国加茂岩倉まつりや、市内の小中学校で児童生徒を対象とした銅鐸の製造授業等を実施し、文化財愛護意識の高揚を図りました。
- 図書館は市民全体の文化振興や生涯学習の拠点となる施設であることから、更なる充実が必要だと考えています。

目標 10 生涯スポーツを推進する。

- 大東ふれあい運動場や加茂 B&G 海洋センターの改修により、一層の生涯スポーツの場の提供を図ることができると考えています。
- 市民のスポーツ意識や施設利用の状況などの実態を把握し、これらを踏まえた交流活動の充実など事業内容の工夫やスポーツ環境の整備を進めることによって、生涯スポーツ推進を一層図ることが必要だと考えています。